

大観^(注1)末、魯公^(注2)責^(注3)宮祠^(注4)歸^(注5)浙右^(注6)。吾侍^(注7)魯公。命^(注8)吾呼^(注9)得一艇^(注10)來、戲^(注11)售^(注12)魚^(注13)。可^(注14)一二十鬣^(注15)。小大又弗^(注16)齊^(注17)。問^(注18)其直^(注19)曰^(注20)：「三十錢也。」吾使^(注21)左右^(注22)如^(注23)數^(注24)以^(注25)錢^(注26)界^(注27)之^(注28)焉。

去^(注29)來^(注30)未^(注31)幾^(注32)、忽^(注33)遙^(注34)見^(注35)樂^(注36)艇^(注37)甚^(注38)急^(注39)、飛^(注40)趁^(注41)大舟^(注42)矣。吾与^(注43)公咸^(注44)愕^(注45)然^(注46)謂^(注47)：「此必^(注48)得^(注49)大魚^(注50)乎。」将^(注51)喜^(注52)而復^(注53)來^(注54)「邪^(注55)。」頃^(注56)已^(注57)及^(注58)、則^(注59)曰^(注60)：「始^(注61)

貨^(注62)爾魚^(注63)約^(注64)三十錢^(注65)也。今乃^(注66)多^(注67)其^(注68)一^(注69)。用^(注70)是^(注71)

來^(注72)歸^(注73)爾^(注74)。」魯公笑^(注75)而却^(注76)之^(注77)。再^(注78)三^(注79)不^(注80)可^(注81)竟^(注82)

還^(注83)一錢^(注84)、而後^(注85)去^(注86)。魯公喜^(注87)。吾時^(注88)十四^(注89)矣。白^(注90)

魯公^(注91)：「此豈^(注92)非^(注93)隱者^(注94)邪^(注95)。」公曰^(注96)：「江湖^(注97)間、人^(注98)

不^(注99)近^(注100)市廛^(注101)者^(注102)類^(注103)如^(注104)此^(注105)。」

吾每^(注106)以^(注107)思^(注108)之^(注109)。今人^(注110)被^(注111)朱紫^(注112)、多^(注113)道^(注114)先王^(注115)

法言^(注116)、号^(注117)士君子^(注118)、又^(注119)從^(注120)騶^(注121)、哄^(注122)、坐^(注123)堂上^(注124)、曰^(注125)

貴人^(注126)及^(注127)一^(注128)觸^(注129)利害^(注130)、校^(注131)秋毫^(注132)、則^(注133)其所^(注134)守^(注135)

未^(注136)必^(注137)能^(注138)尽^(注139)附^(注140)新開湖^(注141)漁人^(注142)也。故^(注143)書^(注144)。

(注)

- 1 大観——宋代の年号
(一一〇七—一一二〇)。
- 2 魯公——筆者蔡條の父、蔡京。
- 3 責——宮祠——祭祀の任を担う。高官を退いた者があたるが、実際の職務はない。
- 4 浙右——浙江(銭塘江)の西の地域。筆者の父の隠居所がここにあった。
- 5 新開湖——現在の江蘇省高郵にあった大運河沿いの湖。
- 6 漁艇——小型の漁船。
- 7 鬣——ひれ。魚を数える助数詞。
- 8 樂艇——櫓で漕ぐ小舟。

- 9 市廛——商店のある街。
- 10 朱紫——高位高官の者が身につける服。
- 11 先王法言——昔の聖王の遺した、のつとるべき言葉。
- 12 騶哄——貴人を先導する従者。さきばらい。
- 13 秋毫——わずかなもの。

(蔡條『鉄困山叢談』による)

問 1 波線部(ア)「約」・(イ)「道」と同じ意味で用いられている語として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

| | | | | |
|-------|----|----|----|----|
| (ア) 約 | | | | |
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 簡約 | 誓約 | 儉約 | 節約 | 要約 |
| (イ) 道 | | | | |
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 道具 | 道程 | 道理 | 報道 | 人道 |

問 2 傍線部A「吾使_レ左右如_レ数以_レ錢界_之焉。」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 私は行き交う漁師たちに適正な値段をつけさせ、お金を渡した。
- ② 私は傍らの漁師に魚の大小に応じて値段をつけさせ、お金を渡した。

- ③ 私は傍らの漁師に魚の数に見合っただけの値段をつけさせ、お金を渡した。
- ④ 私は傍らの従者に命じ、求められた金額どおりお金を渡させた。
- ⑤ 私は傍らの従者に命じ、魚の数と大小とを考えあわせてお金を渡させた。

問 3 傍線部B「始_二貨爾魚_一約三十錢_二也。」の読み方として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 始め爾_{なんぢ}に魚を貨_うるも三十錢に約せんや。
- ② 始め爾の魚を貨るに三十錢を約せんや。
- ③ 始め爾に魚を貨るに三十錢を約するなり。
- ④ 始め爾に魚を貨らしむるに三十錢を約するか。
- ⑤ 始め爾の魚を貨らしむるも三十錢に約するなり。

問 4

傍線部C「魯公喜。」とあるが、魯公の気持ちの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 一尾足りなかったと言い、わざわざ魚を届けてくれた漁師の殊勝な心げに感動した。
- ② 一尾多く渡してしまったと言って魚の返品を求めた漁師に、かえって生真面目さを覚え感心した。
- ③ 一銭足りなかったと言って取りにきた漁師と争ったが、自分の誤りに気づき、正しく支払うことができて安心した。
- ④ わざわざ追いかけてきた漁師が、値をつけるのが一銭高すぎたと言ってお金を返していったことを、得したと思った。
- ⑤ 一銭多くもらったから届けにきたと言い、要らないと断っても、律儀に余分なお金を返していった漁師に好感がもてた。

問 5

傍線部D「此豈非隱者邪。」とあるが、当時年少であった筆者がこのように言ったのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 金銭に関して潔癖で、人の好意に甘えず実直に生きる漁師が、利欲とは無縁の高尚な人物に見えたから。
- ② 繁華な都会から離れて湖で質素に生活する漁師が、反骨精神にあふれた孤高な人物に見えたから。
- ③ 生業にいそしむ漁師とはじめて身近に對話したところ、その話し方は飾り気がなく、純朴な人物に見えたから。
- ④ 昔の聖王の言葉にしたがって湖上に暮らし、利害関係の渦巻く市場に近づかない漁師が、清廉な人物に見えたから。
- ⑤ 高官を退いた父と湖に遊んで悠然とした気分になり、湖上で自由な生き方をする漁師が風流な人物に見えたから。

問 6 筆者は、この新開湖での出来事に触れながら、どのようなことを言おうとしているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 当節の高官の中にも、わずかな利害にとらわれず節操を守ることのできる者がいて、彼らは新開湖の漁師のような隠者と心を通じ合える、ということ。
- ② 当節の高官の中には、わずかでも利害がからむと節操を守ることのできない者がおり、彼らは新開湖の漁師に及ばない、ということ。
- ③ 当節の高官の中にも、わずかな利害にとらわれず節操を守ることのできる者がいて、彼らは新開湖の漁師にまさる、ということ。
- ④ 当節の高官の中には、わずかな利害にさとく了見の狭い者が多いので、彼らは新開湖の漁師のような隠者とは心を通じ合えない、ということ。
- ⑤ 当節の高官の中にも、わずかな利害にとらわれず昔の聖王の言葉を守っている者がおり、彼らは新開湖の漁師に劣りはしない、ということ。

第1講 解答欄

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 問 6 | 問 5 | 問 4 | 問 3 | 問 2 | 問 1 |
| | | | | | (ア) |
| 9 | 8 | 8 | 7 | 8 | (イ) |

5 × 2 = 10

合格点
41点

50